

伊勢湾再生に関する研究者の意見交換会について

環境劣化メカニズム（汚濁機構）・再生メカニズムの解明・整理に向けて、伊勢湾再生推進会議事務局が呼びかけを行い、伊勢湾・三河湾流域圏で活躍されている学識者と意見交換会を開催した。

この場では、産・学・民・官の多様な主体が協働・連携して伊勢湾流域圏再生に取り組むために、全体の枠組みがどうあるべきか、更にはその枠組みの中で研究者のネットワーク組織がどうあるべきか、組織、役割、参画方法などについて意見が交換された。

- (1) 日時 : 平成 20 年 12 月 5 日 (金) 15:30~17:30
 (2) 場所 : 名古屋ダイヤビルディング 121 会議室
 (3) 参加者 : 伊勢湾・三河湾流域圏において委員会等でご活躍の研究者（詳細は下記）

<参加者>

豊橋技術科学大学 井上 隆信 教授
 愛知県水産試験場 鈴木 輝明 場長
 名古屋大学大学院 辻本 哲郎 教授
 東海大学 中田 喜三郎 教授
 名城大学 原田 守博 教授
 三重大学 前川 行幸 教授
 名古屋大学大学院 水谷 法美 教授
 名古屋大学大学院 戸田 祐嗣 准教授※
 名古屋大学大学院 尾花 まき子 研究員※
 名古屋工業大学 富永 晃宏 教授（ご都合により欠席）
 伊勢湾再生推進会議座長（中部地方整備局企画部長）安田 実



意見交換の様子

※伊勢湾流域圏の自然共生型環境管理技術開発研究<科学技術振興調整費>事務局よりオブ参加

<主な意見>

- ・ 研究者のネットワークについて、研究者自身でなく行政側から話を持ちかけられたことは、忸怩(じくじ)たるものがある。
- ・ 湾内のそれぞれの研究（物質、水循環、湾内の流動、湾内の物理的なプロセス、河川の生態、浅場・藻場での生態、漁獲高など）を繋げるプラットフォームとして、伊勢湾再生にどう貢献していくかこの場で考えていきたい。
- ・ 技術や知識が学のところに蓄積されて、それを学として、行政に対して学術的に裏打ちされた提言ができる仕組みを作っていきたい。
- ・ 行政や NPO との直結の連携ではなく、それらと切り離された研究者の横の連携を先につくって、研究者によって自由に議論をして、アウトプットが出たら出す、というものが重要ではないか。
- ・ 伊勢湾再生行動計画を学術的に検証する視点で、研究者としてこの行動計画が合理的かどうかを検証する立場で意見交換できるとよい。

意見交換会後

伊勢湾再生について、研究者が自ら考え、研究し、情報交換、連携する行動をとるべきだとの議論により、研究者のイニシアティブで連携の方向を探りながら情報交換を行うこと目的とした、[学識者のコンソーシアム] を設けることで合意し、当面、名古屋大学の辻本哲郎教授が事務局となって、定例会を開催することになった。

■第1回 伊勢湾流域圏研究会(仮称)

日時：2009年01月22日(木) 9:00-12:00

場所：名古屋大学グリーンサロン東山 ミーティングルーム(1F)

議事：はじめに

話題提供

1. 「伊勢湾流域圏の自然共生型環境管理技術開発」辻本哲郎教授(名古屋大学)
2. 「伊勢湾再生海域推進プログラムについて」 中田喜三郎教授(東海大学)

意見交換

■第2回 伊勢湾流域圏再生研究会

日時：2009年04月03日(金) 13:00-17:00

場所：名古屋大学 (詳細未定)

話題提供：1. 鈴木輝明場長(愛知県水産試験場)

2. 井上隆信教授(豊橋技術科学大学)

3. 戸田祐嗣准教授(名古屋大学)